沖縄の文化や歴史学ぶ

学生部セミナー

感謝を込めて浜辺の清掃活動を行う参加者

学生部主催の「学生部セミナーin OKINAWA」が9月16日から20日まで沖縄本島で開催された。学生同士の絆を深めながら、沖縄の文化や歴史を学ぶ専大オリジナルの沖縄旅に、1～4年次生23人が参加。戦跡を訪ねて平和について学び、民泊や沖縄在住の校友との交流を通じて、沖縄の文化や歴史を学んだ。

沖縄での学生部セミナーは昨年に続いて2回目。学部学年に限らない学生同士の交流や、沖縄についてさまざまな角度から理解を深めることを目的にしている。

旅の前半では、沖縄の戦争の歴史や平和について学んだ。県営平和祈念公園では、沖縄県職員で本学卒業生の島津典子さん（平6法）が平和講話を行った。沖縄戦に備え首里城の地下に作られた第32軍司令部壕や、激戦地の一つ嘉数高台公園（宜野湾市）、ひめゆりの塔（糸満市）を訪問し、学芸員や市の担当者らから、沖縄戦や現在の基地問題などの話を聞いた。

後半は本島北西部の本部町に民泊。同町でシークワーサー農園を営む饒平名知春さん（昭46法）宅で収穫を体験した。シークワーサーを触るのも初めてという学生もおり、収穫のコツをつかむのに一苦労していた。また、それぞれの宿泊先では、沖縄ことば（うちなーぐち）を教わったり、三線やシーサー作りなどを体験したりして、沖縄の人々の温かさに触れた。

最終日は同町の具志堅ビーチで「Clean Town in OKINAWA」を実施。旅の感謝の思いを込めて浜辺で清掃活動を行った。

セミナーに参加した学生は「沖縄戦の話を聞けたのがとても貴重な経験となった。ひめゆり平和祈念資料館で見た手紙や映像、肖像画はとても印象的で、もう二度と戦争は起きないでほしいと思った」「初めて三線を体験できてよかった」「参加する前は、知らない人ばかりで不安があったが、事前学習を含めて他学年、他学部の人と仲良くなれたし、民泊を通じて更に絆が強くなった」と感想を語っていた。

セミナーに参加した学生たち

黒門寄席

秋の夜長に笑い提供

表情豊かに熱演する小文治さん

社会貢献活動 地域とともに

秋の夜長に、落語を楽しむ「第6回黒門寄席」が10月4日、神田キャンパスの相馬永胤記念ホールで開かれた。

本学落語研究会出身の落語家・桂小文治さん（昭55商）と鶯春亭梅八さんが出演した。梅八さんが小話と「真田小僧」で会場を温めると、小文治さんは古典落語の「天狗裁き」を表情豊かに熱演。熟練の話芸で、来場者に笑いを提供した。

黒門寄席は、地域交流・地域貢献の一環として2021年にスタート。今回も卒業生や近隣の方らが大勢来場した。佐々木重人学長はあいさつで、「江戸の雰囲気が残る神田の地で、古典落語を楽しんでください」と歓迎した。

就職だより

〈進路決定した4年次生へ〉進路決定者は「進路届」を就職支援システム「S-net」から「就職アンケート」の回答にもご協力お願いします。

〈1～3年次生へ〉就活を終えた先輩に直接相談できる期間限定相談会を10月7～25日（平日のみ）で実施します。さまざまな業界から内定を得た先輩が曜日替わりで相談に乗ってくれますので、積極的に参加してください。詳細は就職支援システム「S-net」で確認してください。

「オンライン企業研究セミナー」を11月11～29日で実施します。業界のリーディングカンパニーや秋冬インターンシップ参加にあたり特典を設けてくれる企業、専修大学OB・OGが登壇する企業などが参加します。学外の説明会では実現できない専修大学限定の特典や情報を得ながら、自身の業界や企業の視野を広げるチャンスです。積極的に参加して秋冬インターンシップや企業の最新情報を入手してください。詳細は「S-net」で確認してください。

主なキャリア形成支援プログラム（後期）

ラ ライブ配信　オ オンライン　動 動画配信　対 対面

プログラム名	日程	形式
適性検査：VRT職業レディネス・テスト（有料）	申込期間：～2/28(金) 視聴期間：～3/31(月)	動
SPI準備講座（有料）	申込期間：～2/28(金) 視聴期間：～3/31(月)	動
SPI模擬試験	受検期間：～3/28(金)	オ
プレゼンテーション強化セミナー【実践編】	生田：11/8(金)	対
企業人事担当者による模擬面接会	オンライン：11/16(土) 生田：12/14(土) 神田：2/20(木)	オ 対
心理検査：自己理解ワークショップ（有料）	生田：11/19(火) 神田：12/19(木) サテライト：2/5(水)	対
3大学合同グループディスカッション実践講座	11/30(土)	対
学内OB・OGオンライン相談会	12/2(月)～6(金) 12/9(月)予定	オ
IR情報で読み解く、就活のリアル～企業情報編～	1/28(火)	ラ

※詳細はS-netで。事前申し込みが必要なプログラムもあります。

キャリア形成支援課では、上記以外にも低年次向けのキャリア形成支援プログラムを実施しております。詳細はin Campus、S-netをご確認ください。

食料支援プロジェクト第4弾

生理用品の無償提供を開始

後期から生田・神田両キャンパスの8カ所の女子トイレに生理用品のディスペンサーを設置、無償で提供を始めた。

経済面や環境面など諸事情により生理用品を十分に入手できない「生理の貧困」といわれる社会問題が顕在化している。本学では2021年度から食料支援プロジェクトを通じて生理用品の無償配布を継続している。

今回、支援を拡大し、育友会や校友会、教職員等の寄付で実施している食料支援プロジェクト第4弾として生理用品の提供を始めた。

【設置場所】

生田キャンパス
1号館 1階（114教室横）
2号館 1階
4号館 2階
9号館 5階（ゼミ95G側）
10号館 4階（エレベーター裏）

神田キャンパス
1号館 地下1階
9号館 1階
10号館 7階

緑地帯

127年前の韓国人留学生

専修大学には、アジアを中心に世界各国から多くの若者が短期や中長期の留学生として勉学などに励んでいます。

本校の創立者である目賀田種太郎は1870年から一時帰国を挟んで1879年まで、相馬永胤と田尻稲次郎は1871年から1879年まで、そして駒井重格は1874年から1879年までにそれぞれ米国の大学で法律学や経済学などを学んでいました。米国留学から帰国した4人は、1880年に日本で最初の日本語による法律学と経済学が学べる高等教育機関を開校、我ら専修大学の誕生であります。

ところで専大には、1897年に大韓帝国（朝鮮）からの留学生がいたことを知る人は多くないでしょう。つまり127年前の本校には兪承兼、申佑善、池逸燦、徐廷岳の4人の韓国人留学生がいたのです。

彼らは慶應義塾で日本語や一般教養科目を修学します。そしてより専門性の高い教育を受けるために、専大の前身である専修学校の理財科（経済科）へと進みます。日本人と同じく、経済学や簿記学などの講義を受け試験に臨みました。彼らは日本留学から帰国後、専大の創立者のごとく官僚として、そして大学教員として、国の近代化や人材育成に大きな貢献を果たします。特に兪承兼は、田尻をはじめ当時の講師陣に大きな影響を受けて、西欧経済学や世界史に関する著書を数多く残しています。高麗大学の開校時の講師として大学教育にも尽力しました。日本で西欧経済学を体系的かつ総括的に学ぶことのできた唯一の私立学校であった専大の高い教育レベルがうかがえます。

兪承兼は韓国の西欧経済学導入史において大きな役割を果たした人物で、「韓国のアダム・スミスともいうべき人物でもある」とも評価されています。偶然にも彼とは、生まれ育った故郷が一緒だったので、誇り高く、不思議な縁も感じています。

（学生部委員・趙時英）